

平成27年  
3月  
12号

# 自立からの風 だより

発行  
障害者支援施設 自立生活訓練センター  
兵庫県神戸市西区曙町1070 TEL 078-927-2727 FAX 078-925-9229



## 【 目次 】

- 1 … 表紙
- 2 … 次長、課長の言葉
- 3～4 … 行事、事業報告





## 「平成26年度のトピックス」

自立生活訓練課 次長

黒坂 加代子

兵庫県社会福祉事業団創設五十周年を迎えた平成26年度、自立生活訓練センターも設立20年が経過する節目の年となりました。節目というのは施設の事業に特別な光を放ちます。今年度の事業の中からトピックスを二に報告したいと思います。

自立生活訓練センター（以下訓練センターという）には、非常に受容の高い自動車運転訓練事業があります。平成7年から多くの利用者の「運転したい」を実現してきた教習車ですが、この度、日本財団のご理解、ご協力を頂き、念願かなって新車二台を納車することができました。日本財団は多くの福祉車両を団体に提供しておりますが、身体障害者の方が利用する教習車というのは全国でも初めてであったとのことで、訓練センターの支援内容に更なる理解を頂き新しい繋がりができたことに感謝しています。

2月13日、介助犬シンシアとともにその普及活動に取り組み、身体障害者補助犬法を成立させた木村佳友氏の3代目の介助犬認定審査を行いました。

この介助犬デイジーはまだまだ好奇心旺盛な成長途中の三歳のゴールデンレトリバーでした。初めての屋内環境の中で行動審査を難なく突破し、屋外評価として五明石駅から大久保駅までの電車移動、スーパーでの商品購入時の行動確認を行いました。予測のつかない一般乗客からのアプローチにも惑わされることはありません。デイジーの仕事ぶりは介助犬としての仕事の、まさにお手本となる行動であり、木村氏の指示と配慮で仕事をされる様子から、介助犬とユーザーとの関係のあり方を改めて確認できる機会となりました。

また、介助犬デイジーの誕生日がシンシアの命日というこの偶然にも感動しながら、人の繋がりが、命の繋がりに「縁」という言葉が自然と浮かんだ一日でもありました。

これらの事業に取り組んでいるのは、訓練センターが、総合リハビリテーションセンターとともに歩んできた歴史の賜であると思います。多くの関係機関、地域生活を実現し活躍されている利用者の皆様との繋がりが、訓練センターを成り立たせているという重みを追い風として受け止めながら、全国でも数少ない入所施設を持つ自立訓練施設として、私たちならではの施設運営に邁進したいと考えています。



## 人生の危機を乗り越える現場にて

自立生活訓練課 支援担当課長

古賀 功一

私が4月に自立生活訓練課に着任してから、あと少しで1年が経とうとしています。着任して間もない頃、エッセイストの大石邦子さんのインタビュー『体のマヒを超えて』というNHKの番組を偶然見る機会がありました。

大石さんは、昭和十七年、福島県生まれ。22歳の時、出勤途中のバスで事故に遭い、下半身と左半身が麻痺の状態となりました。大石さんは、麻痺した自分の体に絶望し、自殺を図ったこともあったとのことでした。

しかし、寝たきりで4年を過ぎたある時、高校時代に学んだ啄木の「友がみな われよりえらく 見ゆる日よ 花を買いきだ 妻としたしむ」という句を思い出し、自分自身の無念さを短歌にしようと作品を書き始めます。そして、「私にはまだ右手がある。私にもできることがあるかなあ」と思うようになります。歌壇にも作品を投稿したところ評価を受け、『この生命ある限り』という手記を出版することとなりました。すると、手記に共感した方々から沢山の手紙が病院に届くようになり、逆に勇気づけられて、「恩返しできるように、生きなくちゃ」と思うようになったそうです。

さて、この一年私は、自立生活訓練センターの利用者の皆さんが懸命に訓練に励まれる様子を間近で拝見して参りました。時々、先程の番組のことを思い返し、皆さんの姿と重ね合わせます。皆さんが人生の危機に直面しながらも、それを乗り越え、新たな人生を切り開いて行かれる、その現場に立ち会わせて頂く事に大きな意義を感じ、私共には何かと考へ続けながら職務に取り組みしております。そして、訓練を終え、退所される方々を見送っています。

最後になりますが、大石さんの著書の言葉を引用し、私の稿を閉じさせていただきます。

乗り越えられない苦しみなど、ありはしない。苦しみが、みなさんを鍛え、みなさんを磨き、みなさんを大きくする。逃げないで。逃げずに、それを乗り越えてゆくと、もうそれは苦しみではなくってゆく。力に変わってゆく。」

# 行事報告

## ランチアラカルト

12月16日（火）昼食時に「ランチアラカルト」を実施しました。

当日は、いつもと違った雰囲気の中、その場の利用者の皆さんの嗜好や体調に合わせて、主菜から副菜までのすべての料理を選んで召し上がっていただきました。普段の給食の中ではご提供が難しい「ステーキ」や「串カツ」、「刺身」などの出来たて・新鮮なメイン料理も大変好評でした。

「ご飯やお汁の量も調整が可能で、バランスを考え控え目に注文される方、大盛りにされる方、皆さん思い思いのお食事を楽しんでいただくことができました。



## 自立の会懇親会



12月25日（木）自立の会懇親会を行いました。この日は職員も利用者と一緒に昼食を介し、いつもと違う雰囲気の中で話も弾み、テーブルごとに笑顔の花が咲いていました。食事後には、利用者も参加し餅つき大会を行いました。重たい杵で職員と協力して餅をつく姿がとても印象的でした。つきたての餅を頬張りながら楽しい時間を過ごしました。

## 納車セレモニー

このたび公益財団法人日本財団より、当センターに障害者用自動車（教習車）2台を寄贈いただき、平成27年2月6日に納車セレモニーを当センターで執り行いました。セレモニーでは、多くのお力添えを賜りました日本財団の池内氏よりご挨拶を頂戴し、（株）神戸マツダ小西氏より車両贈呈として総合リハビリテーションセンター所長にレプリカキーを贈呈していただきました。利用者を代表して村上氏より謝辞と、実際に自動車への移乗や車いすの積載動作のデモンストレーションを村上氏と安井氏に実施していただきました。今回納車されました教習車には、障害者本人が運転をするための工夫や改造が施されており、今後運転評価や訓練に活用させていただきます。納車を迎えるまでに多くの方にご尽力賜りました。ここに深謝いたします。



## 障害者自動車 運転支援研修会



平成26年11月21日（金）、障害者自動車運転支援研修会を行いました。運転教習所の先生方を始め、自動車運転支援に関わる様々な職種の方がお越し下さいました。障害者の自動車運転指導についての講義を行い、当センターでの障害者自動車運転支援に関する取り組みを紹介させて頂きました。講義終了後は実際に訓練で使用している教習車の見学も行い、参加者の皆様より質問が相次ぐなどして好評を得ることができました。

介助犬認定審査



木村さんとデージー

平成27年2月13日当施設で介助犬認定審査が行われました。当日は今冬一番の寒さに見舞われ、雪が舞うというコンディションの中、ユージャー（木村佳友さん）と介助犬（デージー）は息の合った姿を見せて下さり、見事合格となりました。物を床に落としたりしまった時に拾い上げてくれる介助犬、緊急時に携帯電話を探して手元に持ってきてくれる介助犬、色々な場面で手助けをしてくれると共に、時にはユージャーの心の支えにもなってくれます。木村さんは今回で3頭目の介助犬となります。新たなパートナーと共に、今後も色々な場所で活躍されることを願っています。



教えて～！

「計画相談支援」とは???

「計画相談支援」という言葉を最近よく耳にしませんか。2012年4月に相談支援の制度が変わり開始したもので、障害福祉サービスを利用するために必要な受給者証の申請や更新の時に、役所から相談支援事業所の「サービス等利用計画」が必要です、と言われていたりするものです。これは自立生活訓練センター（当施設）を利用している全ての利用者の方に関係しているものです。

介護保険の利用において介護サービス計画（ケアプラン）が必要のように、障害福祉サービス利用の際にもサービス等利用計画（トータルプラン）の作成が必要になりました。その計画は、相談支援事業所の相談支援専門員が作成する計画か相談支援専門員以外が作成する「セルフプラン」（市町村により運営が異なります）があります。

「計画相談支援」とは、特定相談事業所の相談支援専門員が、①ご本人の生活に対する意向や悩み等を聞きながら、利用計画（サービス等利用計画）の作成や②障害福祉サービス事業所等との連絡調整、③定期的な利用計画の見直しを行うことの3つの支援を行うことをいいます。

当施設では、Eメール会議を通して利用者の方一人ひとりの課題や目標に対して「個別支援計画」というものを作成しています。それでは、「個別支援計画」と「サービス等利用計画」の違いは何でしょうか。

個別支援計画は“当施設のサービスをどのように利用するか”という施設内で作成する具体的な計画であり、サービス等利用計画は“あらゆる社会資源をどのように活用していくか”という総合計画（トータルプラン）であると考えてもらえば良いのではないのでしょうか。

※詳しくは、担当支援員もしくは各市町村役場へ



編集後記

平成26年度、最後の広報誌となりました。

今年度後半は様々な行事や事業が沢山あり、当自立生活訓練センターにとっても、とても充実したものとなりました。

毎年の事ですが、3月は退所者が多く、送り出す側として、応援する気持ちと少し寂しさを感じる月でもあります。

新しくスタートをきる皆様の後押しをしながら、また次に退所を迎える方の準備、サポートをしていきたいと思えます。

最後になりましたが、来年度もまた新たな気持ちでスタートをきれますよう、職員一同チームアプローチでお手伝いさせていただきます。

澤田 彩映



住宅改修に向けたシュミレーション